



杉谷ひろば

No.19

杉谷さんとともにまちを創る会
2012年 9月 3日発行

向日市寺戸町辰巳4-1-101号
杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう!

ホームページ: <http://sugi.pupu.jp/>

向日市議会9月定例会が開会

(8/30~9/25)

行政情報の積極的な公開を求め、 市民の知る権利の保障をめざします



税金は大金持ちから取るべきだ

9月議会に、市民税(均等割)を一律500円アップする税条例改正案が出されました。府民税も、500円アップするので合わせて1000円のアップです。億万長者も、生活保護水準ギリギリの人も等しく同じ負担を求めるのが公正でしょうか?大金持ち・大企業減税の穴埋めを、低収入の人ほど税負担が重い消費税増税で行い、今度は防災対策事業のため、一律に市民税を増税することに、私は同意はできません。

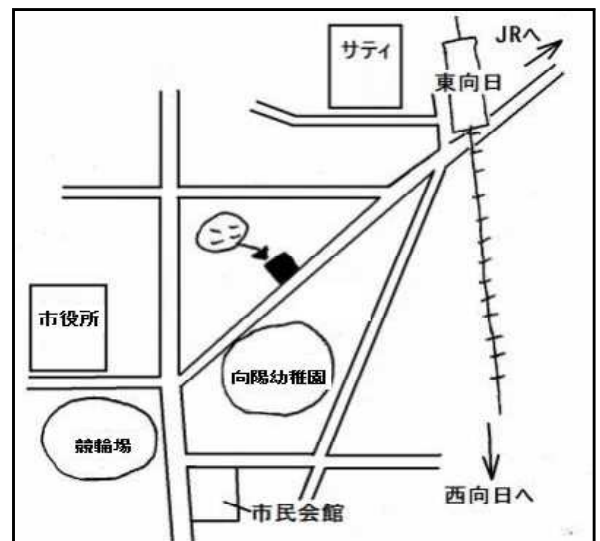
★杉谷議員の一般質問は10日午後1~3時頃の見込み

9/8(土)市民参加でまちをつくる会

9月議会は向日市の昨年度会計の決算審議が行われます。今月の予定は、それにあわせて9月議会に取り上げていくべきまちの課題について杉谷議員の報告を聞き、みんなで意見を出しあいます。私たちの声が市政に反映されるよう、ぜひ参加してご意見をお願いします。

また、向日市の来年度予算にむけて、今月より要求づくりを始め、来月の議会報告会の時にまとめていきたいと思えます。初めての取り組みです。皆さんの要求・ご意見をお持ちよりください。(佐藤)

- 日時: 9月8日(土) 10時~12時
- 場所: 杉谷ひろば(右図)
- テーマ: 「今どうなっている? -巡回バス、向日町駅エレベータ、中学校給食、保育所、道路、福祉...」
- 参加費: 無料



「散髪屋」のとなり
飛び入り参加歓迎!

連絡先

TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-932-1325
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



杉谷伸夫の議会報告

～一般質問の予定～

9/10(月)午後1時～3時頃の見込み

1. 大飯原発事故から市民を守ること

福島原発事故の原因究明もされず、本質的な安全対策は何も行われぬまま、大飯原発の稼働が続けられ、市民の生命が深刻な危険にさらされています。「原発いらない！大飯原発の再稼働反対！」は、国民大多数の声。この声に反して危険な原発の稼働が続けられていることに対し、以下のように市長の見解を求めます。

- ①大飯原発の直下にある破砕帯が、すぐ近くを走る活断層に連動して動く可能性が、国の専門家委員会によって指摘され、再調査を命じられました。直下型地震が来れば大事故が起こる可能性が高いのではないかと。
- ②原発事故による放射線被曝から市民を守るため、向日市の原発防災対策はあるのか？
- ③福島原発事故により、向日市に避難して来られた方々の現状と支援の現状は？6月に成立した被災者支援法を生かした今後の支援は？
- ④この夏、原発ゼロでも電気は十分足りていた。原発の稼働は全く必要ない。大飯原発はすみやかに停止するべきではないかと？

2. 洛西口駅東地区の都市計画変更について

阪急洛西口駅東地区は今年いっぱい土地整理事業がほぼ終了し、来年から建物が建ちはじめます。7月に行政より、この地区の都市計画変更原案が出されました。駅近くとメイン通り沿いは近隣商業地区、その他が住居地区ですが、駅近くは高さ制限60mとされていることなどに対し、「こんな高層ビルが建つような内容とは思っていなかった」との声が、地元住民の方から出ています。この地区のまちづくりのイメージが、行政と地元住民のみなさんとの間で十分共有されていないのではないかと、以下の質問をします。

- ①これまで地元の関係地区住民にどのような説明を行ってきたか。今の段階で、このような地元住民の声が出てきていることについて、どう考えているか。

- ②今後の都市計画案作成の進め方について、行政の考えを問う。
- ③阪急洛西口駅東地区と麒麟跡地の間を南北に走る幹線道路の南半分が、通行止めとなったままで、住民からも不満の声が出ている。本地区の使用が始まる今年末の時点で、この道路も使用開始することが必要ではないか。

3. 市民の知る権利を保障し、行政情報を積極的に公開することについて

行政情報を積極的に公開するとは、単に決められたことを公開することではなく「大切なことはすべて主権者である市民に伝え、市民と共に考え、決定する」という行政の基本姿勢の問題です。

1. 市民に開かれた教育委員会に！

大津市のいじめ自殺問題に関して、教育委員会の情報隠しが社会問題になっていますが、向日市においても問題がないか点検が必要です。この間問題と感じてきたことを問い質します。

- ①教育委員会の日程・議題・議事録の公開が非常に遅れています。そのような中で、教育委員会の市民の傍聴者は、この1年間ゼロです。
- ②「留守家庭児童会健全育成事業実施運営要綱」や「公民館管理要項」といった、教育委員会が管轄する重要な規定が、例規集に掲載されず市民に公開されていません。

これらは、教育委員会の情報公開の姿勢に問題があるのではないかと？

2. 向日町駅のバリアフリー整備事業の進捗状況について

JR向日町駅のバリアフリー整備事業計画案がようやく5月下旬に公表され、市民意見の募集が行われました。でもその結果について、市民には何も知らされていません。

この事業は、市民の要望が強く関心の非常に高い事業です。実施主体はJR西日本ですが、意見募集は向日市も加わった協議会の名で行われており、行政は市民に意見募集の結果報告をするべき責任があります。意見募集の結果と、向日町駅のバリアフリー事業への反映状況、今後の見通しについて、報告を求めます。

- ★議会に提出された議案（決算書を含む）は向日市のHPでご覧になれます。
- ★杉谷伸夫の一般質問予定全文は、当会のHPまたは杉谷伸夫のブログでご覧になれます。

8月・福祉を考える講座 1

～市民参加でまちをつくる会報告

「国民皆保険制度が崩壊している」

8月例会は、京都市で長年、生活保護や国民健康保険などの現場で働き、住民相談に関わって来られた石田哲夫さんを招き、国保と介護保険の現状と問題について話を聞きました。紙面の関係で国保関係について、一部を報告します。

①国民皆保険制度が崩壊している

国民健康保険料があまりに高すぎる。子ども2人と母、計3人で給与収入180万円の母子世帯の例。この世帯は生活保護水準以下だが、保険料は月1

万8千円、年22万円にもなる（京都市の場合）。あまりに過酷だ。保険料の徴収率が90%を切ると国からの補助金カットが始まるため、市町村は徴収推進にやっきになる。京都市の場合、5年前に「保険料納入・相談業務」から「滞納整理に特化する」と体制を変更した。子どもの学資保険などまで差し押さえる事例も出ている。また保険証の取り上げにより、実質無保険者が増えている。よほどの病状になるまで病院に行けない。

②広域化や徴収の民間委託は自殺行為

国保財政悪化の対策として、広域化や徴収業務の民間委託が検討されている。保険料徴収が機械的に処理され、住民と相談しながら解決していくという市町村の最も大切な機能を失うことになる。住民にも職員にとっても自殺行為だ。

③根本問題は、国の補助金削減にある。

福島原発事故避難者を囲み 励ます会を開催（8月30日）

8月30日の夜、7月に続き杉谷ひろばで、福島原発事故による放射能から逃れ、京都市に避難（移住）している3家族5人の親子を招いて、交流会をもちました。6月21日に国会で成立した原発事故被災者支援法について学習した後、避難者の話を聞きました。

福島市から避難して来られたAさんは、「移住してきた」とおっしゃっています。もう福島には戻らない（戻れない）という気持ちでしょうか。「先日子ども2人の甲状腺の検査をしたら、小さなしこりがたくさんあると言われた。今すぐどうこうはないと言われたが、今後も検査していく必要がある。検査には高額のコストがかかるので、継続して検査を受けていくのが大変だ。」

郡山市から避難してきたBさんは、「今年になってから、私にも子どもの体にも、不安なことが続いている。風邪を引いたら1カ月もだらだらと治らなかったり、冬に子どもが今まで見たことのない様なひどい真っ黒なしもやけになったり。放射能の影響ではと心配している。」

福島第一原発から10キロ以内の避難区域から避難してきたCさんは大変な体験を話されました。「事故の翌朝、警察の車が来て、確か『山の方へ逃げろ』と言われた。家族で車に乗って、また帰って来れるかどうかを考える余裕もなく逃げた。最初福島市に行き、県外に逃げ、転々とした。その間、着の身着のまま車の中での生活。結局その

まま、京都に来ることになった。行政からは何の指示もなかった。原発事故が起きたときの避難計画も無かったのではと思う。あれから自宅には2、3度見に帰ったが、まさに廃屋。とても帰れないと思った。自分は地元で店をしていたので、戻って再開するのが無理なら、こちらで再び新しく始めたいと思っているが、先行きがはっきりしない。一番怒りを感じるのは東京電力。被害の正当な補償を求めても高姿勢でなかなか応じてくれない。」

次回は、洛西方面で素敵な企画を！

参加したみなさんから、「大変貴重なお話が聞けた。ぜひ支援していきたい」「これから季節もよくなるし、洛西には素敵どころがいっぱいある。今度は来てもらうのではなくって、私たちが行きましょう」と声があがり、次は洛西方面で楽しい企画を立てることになりました。

杉谷伸夫の活動日誌（8月）

- 8/ 1(水) 京都・市民放射能測定所担当
- 4(土) 島本町・土地区画整理事業学習会に参加
- 11(土) 市民参加でまちを創る会「福祉を考える講座1」
- 12(日) 福島原発事故告訴団・京都集会
市民放射能測定所交流会
- 22(水) 京都・市民放射能測定所担当
大飯原発停止求め関西・京都経済4団体に要請
- 23(木) 教育委員会傍聴
- 24(金) 京都市市町村第一期目議員研修会
- 27(月) まちづくり審議会傍聴
- 28(火) 都市計画原案公聴会傍聴
- 30(木) 向日市議会・本会議第1日目
福島原発事故避難者を励ます会（杉谷ひろば）

インドからの便り

山下 明子

インドのグジャラート州に来ています。マハトマ・ガンディーの生誕地です。

2002年にグジャラート州では史上最悪といわれる宗教間衝突があり、ムスリムが2000人ほど殺されました。アーメダバード市のナローダ広場でも96人が虐殺され、女性たちはレイプされました。2007年に私がそこのムスリム居住区を訪ねた時は、まだまだ緊張感があり遠いシェルターに避難したままの家族もたくさんいました。

一昨日、この事件に対する最終判決がインド最

高裁で出ました。グジャラート州はヒンドゥ至上主義者で知られる政権が続いています。先日、そのモディ州首相は日本を訪問しました。この現政権の元大臣で現在も籍のある州議会議員や重要人物たちが事件の共謀、実行者として、31人が終身刑やそれに近い判決を受けたのです。

新聞はかれらの顔や泣き叫ぶ親族たちの顔を大きく載せており、周囲のヒンドゥ教徒の反応は複雑で、嬉しいというものではありません。私のナローダの知人の隣人も終身刑ということです。しかし私は「インドの最高裁、やった!」と思います。

日本軍「慰安婦」問題でも、制度をつくった共謀者や実行者は終身刑にすべきだったのに、と思います。日本の裁判所は情けなすぎます。

日本の23倍の国土の ブラジルに原発は1基のみ

安野 洋子

7月に2週間ブラジルを旅した。

南米はパタゴニア、ペルーに続き3回目。ヨーロッパには完成された文化はあるが、アフリカと共にこれからの国を旅するのが好きだ。

まず1日かけてサンパウロに夕方着いたが、暗い街並にびっくりした。停電かと思ったが現地の人達を見たら当たり前らしい。不夜城のような日本から来たので驚いたのだ。話してみると、停電もよくあるのでいつもろうそくを用意

しているとのこと。断水もあるとのことだった。電力は火力のみ。サンパウロから南パンクナール、アマゾンの旅したが、広大な原野に太陽ソーラも風車もなかった。原野で泊ったロッジではどこも自家発電をしているようだった。

アマゾンの熱帯雨林が伐採されて地球がおかしくなっていると言われていたが、ブラジルには自然を守るのに力を発揮していることも分かった。2年後にサッカーのワールドカップ、4年後にオリンピックが開催されるが、その日までどのように発展していくのだろうか。

アジアのように物乞いはなかったけれど、危険はあるのだろう。サンパウロの警備はきびしかった。しかし原発に頼らないブラジルに発展があることをとてもうれしいと思う。

連載 ポイント解説

向日市の歴史

鈴木 健弘

第12回 長岡(3)

和氣清麻呂について少しふれてみたい。この名前に最初に接したのは小学校1年生の時である。小学校校区には、京都御所蛤御門の西側に護王神社があった。ここは和氣清麻呂とその姉の和氣廣蠢(わけのひろむし)法均尼・正四位上典侍を祀る元別格官幣社である。狛犬の代わりに猪(いのしし)を飾る拝殿は、旧拾圓紙幣の裏面の絵を記憶されている方には分かりやすい神社である。

ここは日中戦争からやがて太平洋戦争に至る

ころ、清麻呂の皇室への忠誠心を履修して、毎日参拝を義務づけられ、戦勝と武運長久を子供たちにも祈念するよう指導されていた。社務所には参拝するスタンプが用意されていた。学校から支給のカードに捺印満了後提出する。しかし、これは1日も欠かさず参拝することは、子供にとってはかなり厳しい日課であった。

この和氣清麻呂は奈良時代の官人で、本姓、磐梨別公(いわなしわけのみ)。備前国藤野郡(岡山県和気郡)出身。弓削道鏡が宇佐八幡の神官と結託して皇位を望んだ時、勅使として宇佐八幡の神託を受け、阻止したが、これが道鏡の怒りを買って、名を別部磯麻呂(わけべのきたなまろ)と改めて大隅国(鹿児島県)に流された(769)。光仁天皇が即位すると道鏡は追放され、清麻呂は平城京に召喚された。更に桓武天皇には大いに用いられ、長岡京、平安京遷都に活躍した。累進して正三位に昇り、明治以降彼の廟を別格官幣社護王神社とし、正一位が贈られた(733~799)。